

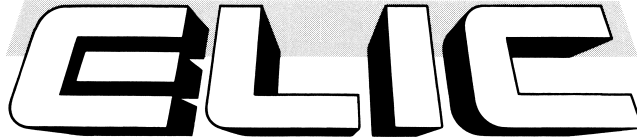
電機労働者懇談会

Electric Labor and Industry Correspondence

2021年10月10日

No 406

発行者ELIC編集委員会谷口利男
142-0043 東京都品川区二葉2-20-8
Tel (03)6421-5323 染野ビル2F
郵便振替00130-3-358078ELIC編集委員会



1部100円

コロナ禍で雇用を守る闘い！

電機労働者懇談会（電機懇）第34回総会は、新型コロナ対応で全国の25カ所(昨年16カ所)と接続したオンライン(下写真)で、9月18日(土)13時15分～16時50分、北多摩西教育会館「3F大会議室」で開催しました。

来賓挨拶は、電機・情報ユニオン米田徳治委員長から頂き2Pに要旨を掲載しました。全労連と労働総研、JCP中央委員会からのメッセージは3Pに掲載しました。

総会は、日立・東芝・三菱電機・パナソニック・NEC・富士通・沖電気・アンリツ・サンケン・ルネサス・岩通などの11企業・31職場と3団体から47名(昨年39名)が出席しました。

総会はオンラインも含めて12名の討論で総会議案が深められました。争議面では、NECDSの不当解雇事件闘争と三菱電機の派遣切り闘争、NECイノベータでの不当解雇事件闘争の勝利から解決に向けての報告が行われました。

日立リストロかながわ対策会議では、全体的取り組みについて報告され、各企業からの経営と人減らしについて、日立では「会社の理不尽なやり方に労働者が声を上げている」、東芝では「現役



労働者も参加して世話人会を開催している」、NECでは「会社が労組を巻き込んで悪い制度をつくっている」、富士通では「労使で低い評価割合を決めて5000人程度が追い出される制度をつくっている」、沖電気では「赤字経営を労働者犠牲で乗り切ろうとしている」、ルネサスでは「好業績の中で差別的な労働者管理で抑圧している」、最後の報告は、ユニオン森書記長より共同行動での更なる発展を実現しようと訴えました。

総会では、22春闘の取り組み準備、コロナ対応で苦しむ労働者を救う為に、ユニオンとの協同闘争をより一層強化し諸要求の実現をめざして奮闘する決意を固めました。

今月号の紙面

- ①電機懇第34回総会を開催
- ②主催者挨拶とユニオン来賓挨拶
- ③全労連・労働総研とJCP
- ④議案書報告、会計報告と監査
- ⑤全体討論「発言要旨」(1)
- ⑥全体討論「発言要旨」(2)
- ⑦全体討論「発言要旨」(3)
- ⑧討論のまとめ、集積回路

